

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500031		
法人名	社会福祉法人 みとし会		
事業所名	楽陽荘 グループホーム ちーず		
所在地	香川県観音寺市柞田町甲1936番地		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 10 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、その方らしさを大切にしています。職員、ご家族との情報共有を行いながら、認知症症状の進行の緩和と日常生活動作の維持、向上に努めています。職員も認知症介護にかかる研修を受講し、施設内でも定期的な研修を行っています。また、利用者の意思を最大限尊重するよう心がけ、個性やこだわりを理解することで一人ひとりに合った関わりができるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790500031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

何と言っても食事風景が微笑ましい。食事に向かないかなと思う静かなBGMであっても、さりげなく耳に奏で、却って当たり前に落ち着きさを与えている。そして、メリハリのある職員さんの語りが、利用者がお皿に描かれたお野菜のチュウリップの絵を間違えて、そっくりの色の人参と思って「なかなか箸で摘まめないよ」と何度も掴もうとしていて、「よく似ている色だけど絵だから取れないね」とか、「お野菜いっぱい食べましょうね」と。ちょっとほんわかとして暖かかった。ある利用者は、「今日は量が多いね」と言いながら、あっという間に完食して、他の利用者にも拍車がかかったのを目の当たりにした。「食事の用意をした甲斐があつての完食なんですよ」と職員は語る。「笑顔こそ大切に」そして「できること見つける」そんな昔していたことに気がつき、手伝って頂くことで、嬉しそうに生き生きさに繋がっているらしい。編み物、大正琴、手芸、雑巾縫いなど反対に職員が学ぶことも多く、おはじき、花札もそのなかの一つ。月に1回のお茶菓子と一服のお茶は、施設のちーず喫茶でくつろぎを醸している。脳トレ、リハビリ体操、四字熟語、演歌歌手の唄など職員と愉しみ、「家族が入りたい施設にしたい。」そんな職員の気持ちが、心にハーモニーを囁いている。そんな「我が家」そのものの施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の笑顔を決やさず、お一人おひとりの生活歴の延長に視点を置き自立のお手伝いをしている。	理念にある、“笑顔で仲良く”を大切に、毎日のケアをしている。理念は事務所と、リビングに掲示してある。毎朝、利用者と職員と一緒に、CDに録音した理念を唱和して、意識づけをしている。月1回の、スタッフ会で、理念について振り返る機会も設けている。毎年、理念にそった職員の個人目標をたて、年度末に振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校のワークキャンプ、秋祭り、文化祭参加など毎年恒例になっており、昨年までコロナの為に中止になっていたが、本年度から秋祭り、文化祭が再開となる。清掃活動にも参加している。	コロナが5類になり、地域の行事が再開され、秋祭りにチョーサが施設に来たり、文化祭に見学に行ったり、利用者は楽しむことができた。地域の清掃活動に参加して、地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の文化祭に作品を出品し、地域の方々に事業所の活動や認知症の理解が得られるよう参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、自治会長、地域住民代表、市の職員、ご家族代表、主治医に参加頂き事業所の取り組み、委員会活動等の報告、意見交換を行っている。	運営推進会議は今年から、対面で行っている。行事報告、利用者、職員の現状報告、介護事故防止委員会の取り組み、各委員会の取り組みについての報告がされた。	更に意見を広く聞き取るためにも、参加メンバーについて、検討されてははいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人員、設備、運営の基準等についての変更や不明な点がある時には、その都度直接市町村担当者に聞きに行くようにしている。2ヶ月に1回地域密着型事業所連絡会に参加し、自事業所の実情を伝え不明な点は質問ご指導頂いている。	窓口は管理者がしている。直接、行って相談することが多く、良い関係づくりが出来ている。運営推進会議の際に、観音寺市高齢介護課の方が参加しているので、相談や情報ももらっている。	窓口を管理者だけでなく、職員もできる体制を検討されてははいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を置き、毎月のスタッフ会で取り組みについて話し合っている。また、定期的に施設内研修を行っている。特にスピーチロックに重点をおいている。	身体拘束委員会を、毎月スタッフ会で行い、担当職員のもと、事例を活用して研修を行っている。ネットや本からの資料を参考にして研修している。スピーチロックに特に力を入れていて、「ちょっと待って」の言葉の後に、「5分後に行きます」、「一緒にするからね」、などのフォローの言葉を添えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に虐待に繋がる些細な行為を見過ごすことのないよう意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設において制度を利用されている方はいないが、必要に応じて私たち職員も学び活用できるようにしていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が利用者やご家族に対し十分な説明をし、ご理解納得して頂けるよう努めている。入所後も疑問や質問等への対応を行うことで理解を深めて頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。苦情に対しては迅速に改善策を立て全職員に周知している。	面会の際に家族から意見を聞いている。面会の際に家族からは、電話で利用者の日々の様子を報告している。ケアプラン作成時に家族の意向を必ず聞くので、その際にも要望を聞いている。利用者の意向は、日常生活の中でくみ取るようにしている。”珈琲が夜にほしい”と要望があり、出すかどうかを相談し、カフェインレスの珈琲を家族に用意してもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会やスタッフ会にて意見や提案事項を把握、また、日常の業務の中でもその都度意見を聞き検討し意見の反映ができるよう努めている。	日常生活の中でも、管理者が職員に気を付けて、声掛けをしてコミュニケーションを深めながら、意見を聞くようにしている。なんでも言える関係ができています。各行事に関する意見を積極的に提案し、レクリエーション活動や運転代行などの運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に合ったアドバイスや内部研修の実施、外部研修への参加の機会を設ける等向上心を持って働けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験年数や力量に応じた研修への参加や資格取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所連絡会や研修会への参加で他施設職員との交流、意見交換することでサービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面会をし、ゆっくりお話を聞き、表情や言葉から本人が困っていることや不安なことを聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族参加でケアプランカンファレンスを行い、利用者を支援していく上でご家族が困っていることに耳を傾けながら少しでも安心して生活が送れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者、ご家族が必要としている事が何かをお話の中から聞き出し対応できるよう努めている。特にに利用者の意思を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、料理や裁縫等長年の経験を生かした工夫等を教えて頂きながら共に生活する関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の利用者、ご家族の思いを大切にしている。体調変化等があった時はすぐに連絡、相談しながら利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、知人が面会に来やすい環境づくりを心がけている。行きつけの美容院にはご家族の協力を得て出かけている。感染予防対策を行いながら交流が増えるよう支援している。	面会は対面で、感染対策をした上で、居室でタイマーで計りながら平等に行っている。利用者の同級生が面会に来て「今はどうしてる?」、「〇〇さんに会いたいなあ」など昔の思い出話に花が咲いた。馴染みの場所にドライブに行ったり、実家の近くに行った。訪問美容に2か月に1回来る美容師さんが、馴染みとなり、利用者は待ち遠しい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事など声を掛け合いながら一緒に行い、役割を分担しお互いを助け合う気持ちを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても「何かあったら連絡ください」と伝え、本人・ご家族の話し相手や相談に応え、支えになれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で多くコミュニケーションをとり情報収集を行っている。ご家族面会時には担当職員を中心に意向をお聞きし、情報共有に努めている。	利用者との毎日の関わりの中で、要望を聞くようにしている。家族からの聞き取りからも、ケアに反映するようにしている。発語が困難な利用者には、居室やお風呂に入った時に、ゆっくりと話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前施設の職員からお話を伺い情報を頂き、今までの暮らしについて知るように努めている。また、ご本人からも日々の生活の中で意向をお聞きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化、顔色、いつもと違う表情に気をつけるようにしている。気が付いた事はタブレットに入力し情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスの実行確認と目標の達成度等のモニタリングを三か月ごとに行っている。担当職員を中心に本人の意向を尊重しながらカンファレンスを行いケアプランを作成している。	担当職員、医師、家族の意見を聞き、計画に反映させている。プラン通りに利用者の様子と照らし合わせながら、3か月毎にチェックし、利用者の思いが反映できるように気を付けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫はタブレットに入力して職員はいつでも見ることができるようになってきている。急な体調変化が見られたらフロアカンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段の会話に耳を傾け、したい事、いきたい所、楽しみたい事を一緒に見つけるようにしている。また、ご家族の希望に添えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や近くの理髪店、スーパー等に出かけていたがコロナ禍の為活用できていなかったが、緩和になった為感染予防を行いながら増やしていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には週1回受診して、ドクターに日々の状況を伝えている。また、ご家族の希望する病院にも受診している。	週1回、かかりつけ医が近いので、なるべく歩いて受診に行っている。24時間対応。皮膚科は、併設の特別養護老人ホームで週1回診療があるので、必要に応じて受診している。歯科は家族の付き添いで、元のかかりつけの病院に行っている。他科は、職員が付き添って受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調変化も見逃さないように、気づいた時にはかかりつけ医に相談をして受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の状況を理解してもらうためにフェイスシートを作成して入院先の病院へ迅速に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の指示の下カンファレンスを実施し、本人やご家族の意思に沿えるように検討している。	看取りはしていない。重度化した場合には、医師のアドバイスの基、再度家族と話し合っケアに臨んでいる。併設の特別養護老人ホームや、かかりつけの病院に移ることが多い。職員にも情報を共有して、ケアに反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、救命救急法の講習を受けている。急変時の対応については、流れを把握し行動できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、日中、夜間想定での避難訓練を行っている。地震災害想定は特養と合同の訓練を実施し安全に利用者が避難できるよう取り組んでいる。緊急連絡網で廻し電話の訓練も行っている。	昼夜想定で、利用者参加で火災津波訓練を行っている。併設の特別養護老人ホームの2階が、避難場所になっている。備蓄は、水、防災食、衛生品など3日分、施設内で保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時以外にも普段からプライバシーを守る対応を心がけている。部屋に入る際はノックの徹底、一人で過ごされている時は本人の希望を尊重している。	呼称は基本的には、苗字にさん付けで呼んでいる。排泄失敗時には、さりげなく言葉掛けをして、プライバシーに配慮している。居室に入る際にはノックをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いする時は必ず声をかけ、同意を得てから行っている。また、気兼ねをしていないか等表情の観察をしている。どの服が着たいか、何を食べたいか等小さな事でも選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望をできる限り優先し、その方の生活リズムや身体状況を把握することでその方らしい暮らしが送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、夕の整容はゆっくりとできるように見守り、できないことはお手伝いしている。2か月に1回近隣の理容室に訪問理容を依頼し、本人の希望の髪型にしている。毎日の衣類は本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食下ごしらえから利用者と一緒に作っている。月一回はおごちそうの日、手づくりおやつの日があり、利用者の希望をお聞きしてメニューを決めている。季節を感じて頂けるよう工夫している。	食事は3食手作りで、利用者が野菜のしょうやくや、皮むきの手伝いを行うことで完食に繋がっている。月1回の”ちーず喫茶”の日を設け、好きな飲み物と、カラオケを楽しんでいる。カラオケの伴奏は、職員と大正琴ができる利用者が演奏し、他の利用者もタンバリンで拍子を取り、楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はその都度タブレットに入力し摂取量が少ない時は栄養補助食品を勧めている。嚥下障害のある方にはトロミ剤を使用したりミキサーをかけて食べやすいよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、準備をして歯磨きの声掛けを行い見守っている。うがいは緑茶を使用、夕食後は義歯を預かり洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導と排便チェック表をつけ、個々の排泄パターンや習慣を把握し、トイレで気持ちよく排泄でき失敗が減るようお世話している。	トイレは3か所ある。排泄チェックシートの活用により、食事やおやつの前後に言葉掛けをし、失敗を減らす工夫をしている。失敗時には、利用者のプライバシーに配慮して、さりげなく言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝には牛乳、水分補給時はバナナジュース等の乳製品を提供している。また、おやつ時には茶寒天で腸の動きを良くして排便を促している。体調に合わせて散歩、体操を行い身体を適度に動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日設定(週2回)はあるが、ある程度余裕を持ちゆったりとした入浴時間の確保で利用者の希望をできる限り尊重し、時間や曜日など個別対応ができるよう努めている。	入浴は、週2回提供している。同性介助で対応している。機械浴もあり、浴槽にほとんどの方が入るので、利用者から”気持ちよかった”の言葉が聞け、お風呂の時間がコミュニケーションの場となっている。入浴剤やゆず湯を使用して喜んで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後から就寝前までゆったりと過ごして頂けるよう配慮している。各居室は馴染みの物を持ち込み安心した生活環境で良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr、指示の下それぞれの薬の用法、用量を正しく理解し服薬介助している。また、マニュアル作成、誤薬防止に努めている。薬が変わった時は、状態の変化に注意しDr、薬剤師に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い等を通じて役割を持ってもらっている。また、ご家族からそれまで楽しまれていた趣味等の情報をお聞きしながら、職員と一緒にやり続けたいけるよう支援している。(大正琴・キーボードに挑戦している)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は減っていたが、緩和されつつあるのでご家族様にも協力を得ながら増やしていく。天気の良い暖かい日には少しの時間でも気分転換を兼ね散歩や日光浴をするよう努めている。	トイレに気遣いしながら、近くの観光地や、運動公園、海にドライブに行っている。利用者に行きたいところを聞いて、紅葉狩りに行った。実家近くに行き、なじみの場所を訪れ、利用者は懐かしい気持ちに浸ることができた。内科受診は、近くなので外出がてら、なるべく歩いて行くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の所持はないが、利用者が希望される物があればご家族に頼んだり職員が買いに行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には、いつでも電話ができるようにお世話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り物、掲示物を利用者と一緒に作り飾っている。又、天窓により採光、換気の調整、照明に配慮し、居心地良い空間作りを心がけている。	天窓から光が差し込んでいて明るい。気温や湿度にも配慮しており、過ごしやすい環境となっている。利用者が作った貼り絵や、習字、塗り絵などの作品が、飾られて微笑ましい。職員と一緒にリハビリ体操や、野菜のしょうやくをしている利用者がいた。日中、ほとんどの方がリビングで過ごし、脳トレや、四字熟語、DVDを使ったカラオケを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者が同じテーブルで食事や話ができるように、利用者の希望で席の移動もできるようにしている。また、席を移動してのレクリエーションも実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は家で使っていた物を持ってきてもらうようにしている。椅子や机、ご家族の写真等も持ち込み自室で落ち着いて過ごせるようにしている。	備え付けは、ベッド、照明、カーテン、ダンス、エアコン。居室は広く清潔にされている。家族の写真や、行事の際の写真が壁面に飾られている。テレビを見たり、愛用のぬいぐるみを持ち込み、利用者は寛いでいる。居室を何番地の表示にして、利用者がわかりやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態に応じて老人車や歩行器を使用して頂き見守っている。移動経路には障害になるものは置かないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない